



紹介者

藤森 伸彦

藤森工業
取締役副会長

渡邊 健太郎

エコラボ合同会社
代表執行役員社長



パルスサーベイで思うこと

コロナが猛威を振るい、日本でも緊急事態宣言の真ただ中の5月中旬、わが社ではグローバルでコロナ対策に関する従業員の意識調査（パルスサーベイ）が行われました。サーベイは、今回のパンデミックに際して全世界の社員が直面した経験について迅速にフィードバックを得るとともに、さらなるサポートや改善が必要なところを特定することを目的とし、四つのカテゴリー（心配事・会社での絆、福利厚生・安全衛生、シニアリーダーシップ・コミュニケーション、リモートワークの生産性）に関する質問について回答するものでした。

全体としてはグローバル、日本とも従業員の評価はポジティブで、とりわけ会社からのサポート、対応方針の明確さや伝達についてはおおむね良い評価でした。日本は東日本大震災の経験が大きく、わが社に限らず今回のパンデミックについては政府の対応、要請に応じて、適切に対応できているのではないのでしょうか。

一方で、わが社も緊急事態宣言に伴い在宅勤務を全面实施としましたが、「リモートワークによる生産性」に関しては、グローバルでは8割が生産的との回答に対し、日本は5割にとどまりました。会社側の改善点としてデジタル環境整備が不十分な部分があり、これについては対応しましたが、グローバルとのギャップの背景として海外とは生活環境が違うこと、あるいは今までは会社の内外を問わず対面での打ち合わせを好む文化が影響しているのではと推察しています。

今回のサーベイ結果を分析・レビューする中で、社内のさまざまな意見を聞いたことも収穫でした。「コロナ禍がもたらした変化がチームの人々が新しいことに挑戦するきっかけになった」「ポジティブなインパクトがあった」という前向きな声もありました。とりわけリモートワークについては多様な働き方としての意見もあり、女性活躍を推進する意味でも「日本における在宅勤務のあり方」を検討しています。

いまだにコロナ感染者数が増え続け、終息が見通せない状況下、New Normalでの「職場／ワークプレイス」とはどうあるべきか、従業員の意見と社内での議論を通じて、わが社としての「最適解」を模索していきたいと考えています。

▶▶ 次回リレートーク

谷口 健太郎

ディーコープ
取締役会長